

会報 78

北陸電波学校
北陸電波専門学校
北陸電波高等学校
金沢工業大学附属高等学校
金沢工業高等専門学校
国際高等専門学校
金沢工業大学

VOL
78
2026.7

令和9(2027)年に 創立70周年 学校法人 金沢工業大学

特集／Challenge

活躍する同窓生

留学を経験した卒業生をインタビュー

国際交流支援事業





Challenge 03

活躍する同窓生

金沢工科大学園の卒業生は、若き日に母校で得た知識や経験を生かし、全国で活躍しています。今回は金沢工業高等専門学校、金沢工業大学、大学院に在籍した山田知徳さんを紹介します。

兵庫支部

やまだ ともり
山田 知徳さん

[大学院・電気電子工学専攻・
平成26年修了]



担当教員だった深見正教授と
意見を交わす山田さん(右)

仮想のデジタル空間上で 精度の高い設計を可能に

開発期間とコストを削減

Yamada Power Unit株式会社(社長・山田知徳)は、兵庫県姫路市に本社を置くスタートアップ企業で、ドローンや極限の環境で使われるレースの車両、航空機、ロケット、AIロボットなどに使用される高性能モータやインバーターを開発設計・製造する企業です。

同社の強みは、仮想のデジタル空間上で、寸法や材料などのパラメータを自動的に変化させながらシミュレーションを繰り返し、最適な形状や性能を導き出す技術を開発したことにあります。

一般的な開発プロセスでは、実機のプロトタイプモデルを製作して実験し、ブラッシュアップを繰り返して完成品を目指します。しかし、これでは開発期間とコストがかかり、近年のスピード感ある市場では競争力を失ってしまいます。

そこで、コンピュータを用いてデジタル空間上で1日あたり1万パターン以上の形状の異なるプロトタイプモデルを生み出し、設計と検証を行います。この膨大なデータから導き出された試作品は、熟練のエンジニアの常識を覆すモータ形状を備えていることも少なくありません。

山田さんは「このプロセスから生まれた斬新な形状で特許を取得した実績があります。開発初期段階から設計精度の高い試作品を提示できることから、期間とコストを大幅に削減できることによって、当社の競争力を高めています」と語ります。

ドローンの航続性能アップ

大学院修了後には大手電機メーカーへ就職した山田さんに転機をもたらしたのは、「マン島TTレース」への参戦でした。過酷な環境下で走り抜くマシン開発を通じ、山田さんは高度な設計技術を培うとともに、自身の技術が世界で通用するという確かな自信をつかみます。

実は、このレースでの技術開発こそが、後のドローン開発につながります。起業直後の令和2(2020)年、山田さんはレースで培った独自の設計技術を空のモビリティへと応用し、ドローン用の画期的なハイブリッドパワーユニットを開発します。ガソリンエンジンと電気モータを最適に制御するこのユニットにより、2〜3時間の長時間飛行が可能になりました。レースの現場で極限まで突き詰

めた技術が、そのままドローンの心臓部として生かされたのです。

マルチコプター型ドローンは、バッテリーに弱点を抱え、20〜30分の航続時間が限界でした。バッテリーを追加しても自重によって消費電力が増えるだけで、航続時間は延びないのが悩みの種となっていました。

この課題を解決するために採用したのが、水平対向2気筒エンジンで電気モータを駆動するハイブリッドのパワーユニットです。重量は6.6キロと軽量化を図り、最大3500ワットの高出力を実現しました。高性能の自社製モータ制御装置も搭載するなどして飛行効率を大幅に向上させ、ドローンの長時間飛行を実現するシステムを実用化しました。

長距離輸送できるドローンは、離島や山岳地帯、そして災害における孤立地域など、従来の陸路ではたどり着けない場所へ、いち早く物資を届けることができます。また、緊急時の医薬品や輸血用の血液を運び、これまでの輸送手段では間に合わなかった命を救う「空飛ぶライフライン」となる可能性も秘めています。

永久磁石を使わないモータ

近年、山田さんが注力しているのが、永久磁石を使用しない次世代モータの開発です。

現在、電気自動車(EV)や産業機械向けモータの多くには、ネオジムなどのレアアースを用いた永久磁石が使用されています。しか



石川県の伝統工芸と最先端のテクノロジーを掛け合わせた唯一無二の製品を作ろうと考え、パワーユニットの表面に「漆塗り」と「金箔」を施した

し、レアアースは産出国が一部地域に偏っているため、地政学的リスクや供給不安を抱えており、価格高騰も進んでいます。そのため、安定調達や持続可能な製造体制の構築が世界的な課題となっています。

さらに、モータの主要部材である「電磁鋼板」についても、世界的な需要拡大による供給不足や製造コスト上昇により、価格が上がり続けています。こうした課題に対し、山田さんは特殊材料への依存を減らし、一般的に流通している汎用鋼材のみで構成する「純鉄モータ」の開発に成功しました。

純鉄モータとは、従来モータで使用されてきた永久磁石や高価な電磁鋼板の代わりに、鉄を主要材料として活用するモータです。一般的に、磁石を使用しないモータは高出力化、高効率化が困難とされてきました。しかし山田さんは、磁場の流れや回転時のエネルギーロスをデジタル空間上で解析・最適化する独自設計技術を確認し、磁石を使用せずとも高出力・高効率を実現しました。

また、使用する鉄は汎用材料であるため、材料調達が安定しやすく、製造コストの抑制にもつながります。レアアースを使用しないことで、資源リスクの低減や環境負荷の軽減にも貢献できる点が大きな特長です。

この独自技術については、すでに特許を出願しており、車載用途での実証実験も完了し

ています。さらに、自動車分野だけでなく、産業機械、ロボット、家電、発電設備など幅広い用途への展開も視野に入れています。

世界のモータ市場は約22兆円規模に達するといわれており、山田さんは純鉄モータを通じて、資源制約に左右されにくい持続可能なモータ技術として、グローバル市場への展開を目指しています。

世界で戦い、日本を豊かに

山田さんは、自社の成長だけでなく、日本全体の将来にも強い危機感を抱いています。

現在、同社の顧客は国内企業が中心です。しかし山田さんは、「日本を一つの会社に例えるならば、国の貿易収支は会社の利益収支そのものであり、我々は外貨を稼がなければならない。国際社会のなかで価値あるものづくりやサービスを提供できなければ日本はいずれ競争力を失ってしまいます」と語ります。

その背景には、日本の産業構造に対する問題意識があります。AIをはじめとしたデジタル化には高性能なコンピュータが必要となりますが、これらのコンピュータに用いられるCPUやGPU、基本ソフトウェアは米国製であり、それらを動かすためのエネルギー資源も海外に依存しています。つまり、日本企業が国内だけで経済活動を完結させていても、実際には海



「セスナ機を飛ばせるほどのパワーがある」と語る山田さん

外へ多くの資金が流出している構造になっています。

だからこそ山田さんは、「世界で戦える独自技術を生み出し、海外市場で収益ではなく、利益を生み出すことが、日本を豊かにすることにつながる」と考えています。純鉄モータの開発にも、単なる新製品開発ではなく、日本発の技術で世界市場に挑み、外貨を獲得したいという強い思いが込められています。

一方で山田さんは、グローバル展開だけでなく、地域社会とのつながりも大切にしています。同社には金沢工業大学出身の社員が多く在籍しており、今後も同校の卒業生の採用や共同研究を積極的に進めていく方針です。

世界市場に挑戦しながらも、地域や母校との関係を大切にする――。山田さんの経営には、「世界に挑み、地元に根を張る」という一貫した思想が流れています。



マン島TTレースの激闘 世界3位入賞の快挙

◀世界中からファンが集まるマン島TTレース

一からパワーユニットを開発

明治40(1907)年から続く「マン島TTレース」は、イギリス王室領マン島で開催される世界最古の二輪公道レースだ。普段は生活道路である公道を閉鎖した特設コースは、1周約60キロ。時速300キロ近い超高速で生垣や石壁の真横を駆け抜ける、世界屈指の過酷さで知られるレースである。

平成29(2017)年、大手電機メーカーに勤務していた山田さんは、「組織の看板に頼らなかつた時、自分に何ができるか」との思いが芽

生え、その答えを探すと同時に、自らを限界まで成長させられる「次の舞台」を求めている。ちょうどその頃、電動バイククラスへの参戦を表明した日本初の電動バイクレーシングチーム「TEAM MIRAI」から打診を受け、パワーユニットの自主開発に乗り出した。

予算などない。給料の大半は開発費に消えた。パワー半導体などの基幹部品は個人では買えないため、インターネットでハイブリッド車の廃材を大量に買い漁り、片々端から分解してチップを取り出した。電子部品のチップは一個一個ピンセットで並べ、家庭用のホットブ

レートでハンダを溶かして基板を作った。アパートの一室から、世界の巨大メーカーと渡り合う心臓部が誕生した。

無念のリタイアに終わった初挑戦

しかし、初挑戦となった平成30(2018)年、マン島の公道は牙をむいた。最初の予選(ブラクティス)で、マシンが残り1キロの地点で停止。海外製のバッテリーが、カタログスペックを10〜15%も下回っていたのだ。また、電動バイクに不慣れなプロライダーがガソリン車の感

覚でバッテリーのパワーを最後まで絞り出したため、バッテリーを使用してはいけない領域まで完全に放電させてしまい、その結果、異常膨張を起こして完全に機能を失った。

徹夜で生き残ったセルを選別し、何とか組み直した。だが次の予選、前クラスのクラッシュによる40分遅延の間に「極限まで充電する」という現場の執念が過充電を引き起こし、走行中、300Vのバッテリーが白煙を上げた。



山田さんが暮らした部屋から世界を驚かせるパワーユニットが誕生した

リタイア届を手にし立ち尽くす山田さんの前に、ライバルチームが予備バッテリーをそっとなし出した。決勝レースのグリッドへマシンを戻したが、消火剤を浴びた影響で水冷ポンプが停止。時速270kmの超高温に達したモータを保護するためシステムがシャットダウンし、無念のリタイアに終わった。

世界を驚かせたインバーター

翌年、リベンジを期して挑んだ令和元(2019)年。1年かけて国内でテスト走行を重ね、パワーユニットは完璧なはずだった。ところが、深夜になって現地からの電話が鳴り響く。「インバーターが完全に壊れた」。

原因は、時速200キロ以上でバイクが跳ねる公道特有の「ジャンプ」だった。少しでも多くのバッテリーを積むため、シート下のわずかな隙間に限界まで薄く作ったインバーターを

配置していた。だが着地の瞬間、ライダーの強烈な荷重でカーボンシートが歪み、インバーターを押し潰してショートさせたのだ。

現地に予備はない。しかし、5時間後の関西国際空港発の便に乗れば決勝に間に合う。山田さんの自宅にあったのは、予備部品だけだった。懸命に1時間で組み立て、飛行機に乗って現地まで届けた。そして、奇跡的に届いたインバーターは決勝直前、現地のピットへ滑り込んだ。

結果は世界3位。1位と2位は、ホンダの創業者・本田宗一郎の長男、本田博俊が設立した「無限(MUGEN)」だった。100年以上の歴史の中で「日本勢による表彰台独占」という史上初の快挙を成し遂げた瞬間だった。レース後、世界のホンダやヤマハのエンジニアたちが、次々と山田さんの元へやってきた。「あの表彰台に食い込んだパワーユニットは誰が作ったんだ」。インターネットで集めた廃材から生まれたインバーターは、その瞬間、世界の頂点に並んでいた。

ものづくりへの回帰

「何のために生きるのか。何のために仕事をするのか」。山田さんは、学生時代からその問いと向き合ってきた。

ものづくりが好きで金沢工業高等専門学校へ進学した山田さんは、在学中から金沢工業大学の「夢考房」でソーラーカーのモータ開発に没頭していた。しかし金沢高専5年の冬、家庭の事情で大学進学後の学費が用意できなくなった。そのため、大学院進学を望むなら学費は自分で稼ぐしか方法がなかった。山田さんはアルバイトに明け暮れたが、時間を切り売りする働き方では、ものづくりに費やす時間が失われていくことに気づく。

そこで始めたのが、フィギュアやゲームを扱うEC事業だった。事業は急成長し、大学4年次には年間数千万円規模の売り上げを生み出すまでになった。想像以上にお金が稼げたことで、学費捻出の目的はどこかへ行き、高級車を買いたいという欲がでるようになった。そして目標とした高級車を手にした日、

山田さんは強い虚しさを覚える。

「ものを右から左へ流すだけの仕事に人生を懸けられるのか」。

そう考え、「自分の人生を懸けて成し遂げたい」ことを見つめ直し、「ものづくりで世の中を変えたい」と気づく。そして、ためらうことなくインターネット物販の事業を手放し、再び「夢考房」へ戻った。

当時、独学でモータ開発に取り組んでいた山田さんは、自らの試行錯誤の記録をまとめた技術解説サイトを開設する。すると、その内容が評価され、上

場企業から試作や技術相談の依頼が舞い込むようになった。

大手電機メーカーの面接では「ものづくりで世の中を変えたい」と熱意をぶつけ、狭き門を突破した。入社後は厳しい開発現場で経験を積み、平成29(2017)年、有志とともにマン島TTレース向け電動バイクのパワーユニット開発に挑む。

この経験を経て、山田さんは令和2(2020)年に起業。現在は自身が立ち上げた会社で目標であり夢である「世の中を変える」ため、人生を捧げている。



ソーラー用インホイールモータ



金沢高専でソーラーカープロジェクトに没頭した

NEXT STAGE INTERVIEW

こぶし会は、学生のグローバルな成長をバックアップするため、国際高等専門学校と金沢工業大学の国際交流プログラムを支援しています。留学の中で「国際感覚」を磨き、社会へと羽ばたいた卒業生の足跡をたどります。

01

大学院・電気電子工学専攻・令和7年修了

大矢 良斗さん

留学が自分のベースに 選考面接で「覚悟」に



ビッグベンを背景に着物姿の大矢さん

大学1年次に参加したビジネスプランコンテスト（ベトナム）で、英語の未熟さを痛感しました。そこから、海外で勤務する電気エンジニアを目標に、コロナ禍の間は大学のオンライン授業で英語を磨きました。

憧れていた留学が実現したのは大学4年次でした。留学に行けたのはこぶし会のおかげです。支援を受けるための選考面接では、英語を学ぶ意義と覚悟を確認する貴重な機会となりました。

レスター大学（イギリス）に半年間滞在し、印象に残るよう普段着は着物でした。文法は不完全でも「気

持ち」で思いは伝わります。さまざまな国の人と意見を交わしたことで、世界の出来事が身近になりました。

現在、世界60カ国でエネルギーの総合エンジニア事業を展開する企業に勤務し、カタールへの赴任を目指しています。留学の経験が自分の礎になったことは間違いありません。



アイスランドを代表する「グトルフォス（黄金の滝）」で撮影

02

大学院・機械工学専攻・令和4年修了

石塚 朱音さん

自分の考えを積極的に発信 環境を変えてチャレンジを

子どものころからものづくりに関心があり、金沢工業大学に進学しました。1年次から「夢考房」のロボットプロジェクトに参加しました。もちろん、「勝利」も大事なのです



ナイアガラの滝で記念撮影する石塚さん

が、自分で設計したものが実際に組み上がって動く過程に喜びがありました。

留学したのはロチェスター工科大学（アメリカ）です。「苦手な英語を克服しようと環境を変えました。言葉で主張しなければ考えは伝わらない」という経験が、積極的に自分を発信する転機となりました。

最近、自動車メーカーに転職し、電気自動車の電源システムの開発を担当しています。留学したことで、環境を変えて挑戦することに対し、前向きになれたからです。これからも新しい領域へと飛び込んでいきます。



ハロウィーンイベントをクラスメイトと楽しむ石塚さん（左）

同窓会編

こぶし会



古橋孝実大学同窓会会長に入会の詞を述べる早川さん(右)

令和7(2025)年度同窓会入会式が高専同窓会は令和8(2026)年3月3日、大学同窓会は3月13日にそれぞれ行われ、こぶし会の発展に欠かせない新会員が社会に役立つ人材として活躍することを決意しました。

卒業式後に行われた入会式では、西

谷隆司高専同窓会会長(高専・電気・昭和53年卒)が「こぶし会と高専同窓会の行事に参加し、個人の研鑽に励んでください」、古橋孝実大学同窓会会長(大学・建築・平成8年卒)が「こぶし会と大学同窓会での『人と人』とのつながりを大切にし、自分らしく豊かな未来を歩んでく



西谷高専同窓会会長に入会の詞を読み上げる泉屋さん(左)

会員数は84,494名に 高専・大学で同窓会入会式

ださい」と歓迎の言葉を贈りました。

幹事を代表して、高専では泉屋匠吾さん(国際理工学科)、大学は早川泰我さん(心理科学科)が入会の詞を読み上げました。

今年の新会員は、高専同窓会が5名、大学同窓会が1,434名でした。

機扇会

機械工学科・機械システム工学科・物質応用工学科・先端材料工学科・
物質システム工学科・ロボティクス学科・航空システム工学科・航空宇宙工学科

宮野靖先生が最終講義

49年間の研究成果振り返る



自身の足跡を伝える宮野先生

宮野靖先生の最終講義が令和8(2026)年3月27日、金沢工業大学23号館で開かれ、研究室に所属した卒業生と修了生、学内外の関係者をあわせて79名が出席されました。

宮野先生は、昭和52(1977年)に本学に教授として着任され、材料システム研究所や高度材料科学研究開発セ

ンターの所長を長年にわたって兼務されました。退職までの49年間で先生の指導を受けた学生は960名におよびます。

最終講義では、航空機・船舶・自動車などの構造材に用いられる炭素繊維強化プラスチックの耐久性のデータを公表したほか、数十年先の長期の強度を数式で導き出す画期的な手法を提唱し、国際的な評価を受けるにいたった経緯を解説されました。

記念祝賀会では、同窓生を中心として和気あいあいとした雰囲気の中で先生の退職をお祝いし、楽しいひと時を過ごしました。

280名が機扇会に入会 機扇会賞は35名に

学位授与式および学位記手渡し式は令和8(2026)年3月13日に開かれ、280名(機械工学科176名、航空宇宙工学科36名、ロボティクス学科68名)の卒業生が機扇会に入会しました。この日は、プロジェクトデザインⅢで優秀な成果を挙げ、各研究室の指導教員より推薦された卒業生35名(機械工学科19名、航空宇宙工学科8名、ロボティクス学科8名)に機扇会賞が授与されました。

238名が新たに入会

はなむけの言葉贈る

令和7(2025)年度入会式は、令和8(2026)年2月13日、新会員や先生方などが出席し、21号館1階ラテラで開催されました。

最初に吉井源治琥睦会会長(大学・電子・平成5年卒)が祝辞を述べ、琥睦会の活動などを説明しました。その後、古橋孝実金沢工業大学同窓会会長(大学・建築・平成8年卒)、電子情報システム工学科主任の野口啓介教授(大学・電子・平成2年卒)などから新会員に向けたはなむけの言葉が贈られました。

電気電子工学科を卒業した新会

員を代表して中山大地さん(津田研究室)が入会宣言し、新幹事に選ばれた楠彪雅さん(藤田洋司研究室)、武田伊吹樹さん(野口研究室)、秋山航太郎さん(山口研究室)、村田翔さん(直江研究室)が紹介されました。

謝恩会では、中村壮佑さん(大澤研究室)の司会のもと、卒業生並びに教員が終始、にぎやかな雰囲気で歓談し、新幹事を代表して秋山さんの万歳三唱で入会式を締めました。今年の入会者は238名となりました。



会員の今後の活躍を祈った入会式

総会 告知

- 日 時 令和8(2026)年10月24日(土)
- 場 所 金沢工業大学
- 総 会 23号館2階23・221室
- 懇親会 21号館2階イルソーレ

※詳細はこぶし会ウェブサイトでお知らせします。

ながつき会賞を授与

新たに95名が仲間へ

令和7(2025)年度入会式は令和8(2026)年2月13日、金沢工業大学21号館「イルソーレ」で開催され、卒業を控えた学部4年次93名(欠席2名)ならびに教員、ながつき会会員の計111名が参加し、新会員の門出を喜びました。

入会式は、卒業の祝福と激励を兼ねて実施しています。今年は56期生が入会し、井浦幸太郎さんが幹事として入会を宣言しました。また、26期生の橋場正明会長(平成8年卒)、17期生の作田



入会式に出席された皆さん

光生さん(昭和62年卒)が祝辞を述べました。

学生、教員、会員が終始なごやかな雰囲気懇談し、互いの絆を深めました。入会式の締めとして23期生の三澤秀幸さん(平成5年卒)がエールを贈りました。

ながつき会ゴルフ大会 告知

- 日 時 令和8(2026)年10月17日(土)
9:41スタート
- 場 所 白山カントリー倶楽部(松風コース)
- 参加費 3,000円

現場研修会 告知

現場研修会を令和8(2026)年8月3日、金沢市南部で開催いたします。

※詳細はこぶし会ウェブサイトでお知らせします。

経工会

経営工学科・経営情報工学科・情報マネジメント学科・
情報経営学科・経営情報学科



講演

丹羽 和征氏
(経営・平成6年卒)

令和8(2026)年 8月22日(土)

第47回夏の異業種交流会 参加無料

告知

「ゼロからじゃない、イチからのスタート。」

会場:こぶし会多目的ホール(対面とオンライン併用のハイフレックス型式)

第47回夏の異業種交流会は令和8(2026)年8月22日にこぶし会多目的ホールで開催いたします。今回はこぶし会事務局長に就任した丹羽和征氏が講演予定です。こぶし会会員の方ならどなたでも参加できますので、経工会およびこぶし会ウェブサイトからお申し込みください。

経工会



第46回 冬の異業種交流会 社会実装を実装するための思考

REPORT

金沢工業大学情報デザイン学部経営情報学科の中野真准教授(現・教授)が令和8(2026)年1月17日、こぶし会多目的ホールで「『技術者の視点』について」と題して講演しました。

中野准教授は講演の中で、経営工学についての4つの見解を示しました。はじめ

に「活動の基礎となっているもの」として、3冊の書籍と研究発表・論文を紹介しました。次に「実社会において基礎となっているものが利用可能であること」として、社会人への教育プログラムの実例や業務のIT化について説明しました。続いて「基礎となっているものを身

に着けることの有用さ」として、基礎となる科目を学部生に展開した際の効果を実証しました。最後に「基礎となっているものと現在の技術・考え方を合わせた活動」として、社会実装を実現するために必要な思考のあり方を提示しました。

高専同窓会

金沢工業高等専門学校、国際高等専門学校

宮下郁平さん(電気・昭和47年卒)に優勝のトロフィー!

第2回ゴルフ大会

第2回金沢国際高専同窓会ゴルフ大会が令和8(2026)年5月31日、石川県能美市の白山カントリー倶楽部(松風コース)で21名が参加して開かれ、宮下さんが優勝の栄冠に輝きました。

高専同窓会のイベントとして定着させていく予定です。来年の大会にも、多くの方の参加をお待ちしております。



成績

- 優勝 宮下 郁平 さん(電気・昭和47年卒)
- 2位 松田 博光 さん(電気・昭和50年卒)
- 3位 大野 吉則 さん(電気・昭和50年卒)
- ◆ ベストグロス 79 宮下 郁平 さん

積木会

建築学科・居住環境学科・
建築都市デザイン学科・建築デザイン学科

建築研修会を 今秋に開催予定

告知

建築研修会につきまして、今秋の実施を予定しております。開催日時や会場などの詳細は決定次第、こぶし会ウェブサイトにてご案内いたします。



平成29(2017)年に実施された「岐阜県美濃の現代建築を巡る」

せんしょうかい
扇翔会 情報処理工学科・情報工学科・メディア情報学科

10月17日(土)に卒業生懇親会を開催

告知

こぶし祭(工大祭・高専祭併催)の開催に合わせて、下記のように「扇翔会卒業生懇親会」を開催いたします。情報処理工学科、情報工学科、メディア情報学科の卒業生の皆さまの参加を心よりお待ちしております。

- 日時 令和8(2026)年10月17日(土)
10:00開始12:30終了(予定)
- 場所 金沢工業大学21号館1階(予定)
※開催日時・場所が変更になる場合は、ご回答いただくメールアドレス宛に通知いたします。
- 会費 無料
- 申し込み締切日
令和8(2026)年10月10日(土)

●申し込み先

卒業生懇親会
申し込みフォーム

扇翔会



<https://forms.cloud.microsoft/r/Gi0SLNvCZZ>

支部編

70周年を機に 強固なネットワークを 石川支部総会・懇親会

石川支部の令和8(2026)年度総会・懇親会は4月25日、金沢市のANAホリデイ・イン金沢スカイで開かれ、来年迎える70周年を機に、世代を問わずフラットに語り合い、同窓生ならではの強固なネットワークを築いていく決意を新たにしました。

総会では、米森信夫支部長(高専・機械・昭和45年卒)が「学校でもらった多くの学びと縁を社会へお返ししたい」とあいさつし、松田真一会長(大学・情報処理・昭和50年卒)が「こぶし会の活性化のため、人と人とのつながりを再構築していきたい」と祝辞を述べました。田向純理事長(高専・



一致団結してこぶし会を盛り上げることを誓った皆さん

電気・昭和61年卒、大学・電子・昭和63年卒)が「来年は学園70周年を迎えます。学園と同窓会が両輪となって祝いたい」と述べ、乾杯しました。

懇親会では、出席者が終始和やかに歓談し、中締めは泉屋利明常任理事(高専・電気・平成5年卒、大学・情報・平成7年卒)が務められました。



乾杯の発声を前にあいさつする田向理事長

◎令和7(2025)年度支部総会(12月～3月)

■ 沖縄支部
令和8(2026)
年1月24日(土)

■ 岩手支部
令和8(2026)
年1月24日(土)



沖縄支部の総会に集った皆さん

気軽に参加できる交流会に 「女性エンジニア・リケジョ交流会」を初開催



左／交流会に参加した皆さん
右／「後輩と話することができてうれしかった」との感想もありました



関東こぶし会は、令和8(2026)年2月28日、東京都港区の金沢工業大学虎ノ門キャンパスで「女性エンジニア・リケジョ交流会」を初めて開催し、首都圏在住の女性たちが参加して、悩みなどを相談しました。

昨年の「七夕同窓会(東京、神奈川、千葉、埼玉合同の支部総会)」で、女性同士が相談し合えるような機会があれば参加してみたいという意見があり、初めて開催しました。学部4年次から

70代まで幅広い参加があり、女性同士とあって共通の話題も多く、終始和やかな交流会となりました。

関東こぶし会会長の中村幸蔵千葉支部長(大学・電子・昭和63年卒)、香田祐毅東京支部長(大学・建築・平成21年卒)、菱川英海神奈川支部長(大学・機械・平成3年卒)、小林勝埼玉支部長(大学・経営・昭和52年卒)が運営に当たり、スムーズに進行しました。また、関東こぶし会事務局を長年務めた

田向純理事長(大学・電子・昭和63年卒)も駆けつけました。

当日は多くの方が参加できるように2部構成とし、第1部は8名、第2部は6名が懇談し、交流タイムでは、「自己紹介シート」をもとにそれぞれのプロフィールを共有しました。在学中の思い出のほか、就職後のキャリア形成や子育てとの両立といった話題で盛り上がり、会話が途切れることはありませんでした。

新支部長 紹介



岩手支部長
ふるだて せいご
古舘 誠吾氏
(大学・建築・昭和55年卒)



福岡支部長
こやなぎ まさひで
小柳 政秀氏
(大学・電子・昭和55年卒)



沖縄支部長
おほはま たくろう
大瀧 拓郎氏
(大学・土木・平成14年卒)

告知 支部総会開催のお知らせ

- ・道東支部／帯広天然温泉ふく井ホテル
令和8(2026)年7月25日(土) 18:30
- ・茨城支部／水戸市民会館(14:30講演会、16:00総会)
講師：金沢工業大学 赤坂剛史教授(オンライン)
／中華料理 景山 京成百貨店支店(17:30懇親会)
令和8(2026)年7月25日(土)
- ・新潟支部／ホテルニューオータニ長岡
令和8(2026)年7月19日(日) 18:00
- ・香川支部／海鮮居酒屋 神童ろ(わらじろ)
令和8(2026)年7月18日(土) 19:00

今後開催の決まった各支部につきましては、
こぶし会ウェブサイトで紹介します。



こぶし会

PLUS
高専

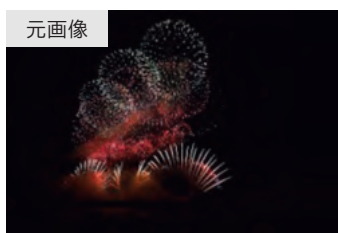
夜景印刷の一般常識を覆す新技術

大塚作一教授の研究グループ

国際高等専門学校の大塚作一教授（現・金沢工業大学教授）の研究グループが、令和7（2025）年12月3日から3日間、広島県広島市の広島国際会議場で開催された「IDW2025」で、「Best Paper Award」を受賞しました。従来の印刷方式では不可能だった「自然な夜景」を再現した点が高く評価されました。

IDWは、ディスプレイ技術と画像処理分野の世界の研究者が集う、国際的に最も権威ある学会の一つです。

この研究は、「夜景を見たままの印象で普通紙に印刷できる技術」を世界で初めて実現したものです。ディスプレイは人間の目とは違い、「明るい



元画像
昼間に見ると真っ暗に見える元々の写真と最新技術で生成した画像



光源が白飛びする」「暗部が黒く潰れ、階調が失われる」「実際の肉眼との印象とは大きく異なる」「印刷すると画質が大幅に低下する」という問題があります。

そこで、人間の視覚モデルに基づく2段階変換処理を開発し、夜景の自

然な再現に成功しました。従来の夜景印刷の常識を覆し、人間の概日リズム（体内時計によって刻まれる約24時間周期の生理的なリズム）を画像処理に取り込んだことで、昼間の室内で印刷画像を見ても「夕方や夜の光源」を自然に感じ取ることができます。

PLUS
大学

「経団連グローバル人材育成スカラーシップ」に採択

街道瑠奈さん（機械工学科4年）が海外留学へ

公益財団法人経団連国際教育交流財団が運営する「令和7（2025）年度経団連グローバル人材育成スカラーシップ」に、街道瑠奈さんが採択を受けました。金沢工業大学が対象校となって以来、初めての採択となります。

森本・林研究室に所属する街道さんは、医療用手術支援ロボットの開発を目指しており、令和8（2026）年秋から6カ月間、「プロジェクトデザインⅢ（卒業研究）」の一環として、ドイツのアーヘン工科大学への海外留学を予定しています。

金沢工業大学に入学直後に、課外活動プロジェクト「医工連携に基づいた人間にやさしい医療機械の創製」に参加

した街道さん。金沢医科大学消化器内科の北方秀一教授と連携し、胃壁からがんを摘出したあとに胃壁を縫う装置の開発に3年間、取り組んできました。

元々、留学には興味があったそうで、経団連のスカラーシップに応募。二次面接では「ロボットが好き」「大学で学んだ制御工学と融合した医療用手術支援ロボットの開発に携わりたい」「医療機器メーカーはアメリカ、ドイツが多く、経験を積みたい」とアピールしました。



森本喜隆教授と採択を喜ぶ街道さん

「研究内容などはまだ決まっていませんが、整形外科手術用の手術支援ロボットに関する研究を行いたい」と街道さんは意気込んでいます。

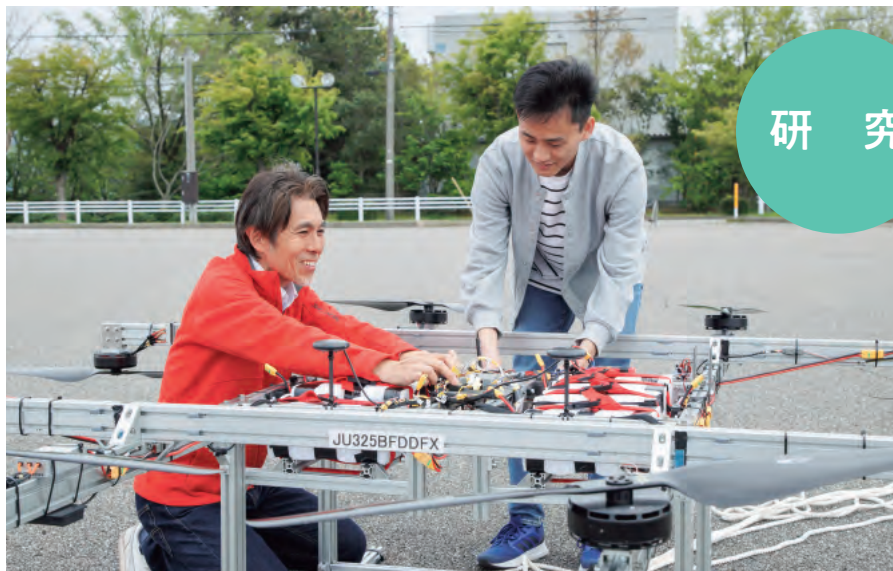
■ 赤坂 剛史 教授

金沢工業大学

工学部

航空宇宙工学科

研 究



飛行前に機体の調整を行う赤坂教授(左)と上田さん



過去から未来へ
学園の学び

社会を動かし、

ドローンで 災害支援を

プロペラと固定翼で性能向上

令和8(2026)年3月10日。最大積載量50kg・飛行距離50km超の「VTOL(垂直離着陸)型有翼電動ドローン」の飛行試験が福井県坂井市の福井空港で実施されました。当日は、高度5mまで機体を上昇させ、安定性、操縦性、運動性を検証しました。

ドローンは、全長2.5m、全幅2.5m、本体重量100kgで、日本ではこの大きさの機体は、ほとんど製造されていません。5m以上の風が吹いても安定した飛行が可能で、災害支援を想定しています。機体の特徴は、プロペラに固定翼を組み合わせたことです。固定翼が揚力を生むことで、プロペラのエネルギー効率が高まり、航続距離と積載量の大幅な向上を実現しています。

被災地での経験生かす

この機体の開発に取り組んでいるのが、赤坂剛史教授です。令和6(2024)年物資搬送用ドローンの研究開発を始め、同年度大学発新産業創出基金事業「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」の採

択を受けました。令和7(2025)年3月には1号機の飛行試験に成功しています。

災害用ドローンに着手したのは、これまで赤坂教授が奥さまとともに、東日本大震災(宮城県石巻市)、熊本地震(熊本県熊本市)、フィリピンレイテ島台風災害など被災地での活動に熱心に取り組んできた経験があるからで、「物資を届けることで、助かる命は必ずあります」と力を込めます。

そして、令和6(2024)年1月1日の能登半島地震で、いたるところで道路が寸断され、孤立した地域に物資搬送ができない状況を目の当たりにし、空から確実に命をつなぐ手段が必要だと考え、いてもたってもいられない思いでプロジェクトをスタートさせました。

2年後に事業化を

現在、やつかほりサーチキャンパス(白山市)で、研究室の上田遙誠さん(航空宇宙工学科4年)ら3名とともに、安定飛行に向けた姿勢制御などのデータの収集に当たっています。失敗を恐れず試行錯誤を重ねる実践的な開発現場は、次代を担う技術者を育む場にもなっています。

採択を受けたプログラムでは、令和10(2028)年に事業化することが求められています。スタートアップ企業として存続するには、災害時だけでなく、日常の物流運搬で収益を上げる必要があり、電力会社と連携して送電線のメンテナンスや、山間地や離島での運用で実績をつくる計画です。

物品の宅配用としては機体が大きすぎるため、拠点間の物流などでの利用を考えているという赤坂教授は「災害は日本だけではなくて地球規模で起きています。今後は海外展開も視野に入れていきたい」と夢を膨らませます。



実際に飛行するドローン。当日は5m以上の風が吹いていたが、姿勢は安定していた



恩 師

試合で選手に戦術を説明する青木教授

人を育てる

学生から慕われる温かな指導。社会の課題を解決する探求心。学園には「社会を動かし、人を育てる」情熱が息づいています。今回は金沢工業大学の赤坂剛史教授と青木隆教授をご紹介します。



7年間、無敗の王者

バスケットボール部のヘッドコーチを30年間務めた青木教授。特に、平成2(1990)年から平成8(1996)年の7年間、北信越大学バスケットボール春季リーグ戦と秋の北信越大学バスケットボール選手大会で勝ち続けたのは、今でも語り草になっています。

就任当初、金沢工業大学は多くの部活動が活躍しており、バスケットボール部も負けまいと練習したようです。学生は、基礎や走力中心の厳しい練習に立ち向かってくれたそうです。そこには、目標の一致があったことが大きいと話されます。「ただ、それだけでは、関東をはじめとした強豪校には太刀打ちできません。基礎を身につけ、流行りの戦術を学ぶのは当たり前で、その上で新しいアイデアで戦わなければならないのです。当時は、邪道と批判されるような戦術を産みだし、勝負に挑んでいました」と振り返られます。

その後、より高いレベルのプレーを追求したいと渡米し、ロサンゼルスオリンピックで金メダルを獲得した男子アメリカ代表チームのヘッドコーチを務めたボビー・ナイトさんに会うため、インディアナ大を訪ねられています。

世界各国から氏の指導方法を学ぼうと、観客席は見学者であふれていました。しかし、コーチングの重要な部分は公開されません。そこで、コートの上で



平成12(2000)年4月のアメリカのローズ・ホルマン工科大学との親善交流試合

がけと球拾いで選手と仲良くなったという青木教授は「ボビーさんにも声をかけられるようになり、教えるを請う機会を得ました。この経験により、目的の達成には座していても成果は向こうからやってこないと実感しました」と語ります。

社会で活躍する基礎力

ところで、少子化による大学全入時代を迎え、特に地方の私立大学は厳しい経営を強いられています。しかし、そのような状況下だからこそ、金沢工業大学に入学した学生は、確かな基礎力を身につけ、社会で活躍できる力をつけて卒業してもらおうのが責務だと強く意識しています。

常日ごろ、学生たちにかけている言葉があります。それは「新しくチャレンジする時の努力のつらさは一生続かない。自分の殻を破る瞬間だけがつらいのだ」です。今の自分の殻を突破し、見える世界が広がれば、それが「普通(新しい基準)」になる。思い切って一歩を踏み出してほしいと考えています。

同窓生と歩む大学に

学生には、音楽でもスポーツでも学生プロジェクトでも、経験のない世界をのぞいてみることで、没頭できるものを探求することを求めています。体験しなければ一生知ることはなく、そうした出会いの積み重ねが、気づかなかった自分の学ぶ目的や可能性を広げてくれると言います。同窓生に対しても変化する時代の流れを素直に受け入れ、学び直す勇気が必要だとし、青木教授は「母校に戻って大学の知識に触れれば、次に進むきっかけを得ることができます。いつでも帰ってきてください」と温かな眼差しで呼びかけました。

広い視野で
殻を破って
の活躍を

令和9(2027)年に創立70周年

学校法人 金沢工業大学



令和8(2026)年は、学校法人金沢工業大学が69周年を迎える節目の年です。これまで学園を支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。

私たちは、70年の歩みを振り返りながら、これからも社会に信頼され、必要とされる人材を育成し、教育と研究の質をさらに高めていきます。

この決意を創立70周年のシンボルマークに込めました。中央に描かれた「イヌワシ(ゴールデンイーグル)」は、石川県の県鳥であり、学園の象徴です。昭和61(1986)年の創立30周年記念塔にも使われたこのモチーフには、「どんな時代でも勇気を持って前進し、世界に羽ばたく」という思いが込められています。

今後も、教育・研究活動へのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

理事長 田向 純



70年の『ありがとう』と時代を動かす『次の主役』へ

来秋、記念事業を開催

こぶし会は、学園創立70周年という大きな節目を祝うとともに、皆さまと共に次のステージへと歩みを進めます。記念事業の開催を機に、未来へと続く同窓会の「新たなカタチ」を模索し、これからの時代にふさわしい新しいネットワークを築きます。

同窓生の皆さまが集い、笑顔があふれる企画を検討中です。具体的な日程やプログラムは、今年度中に決定し、最新の進行状況につきましては、随時、こぶし会ウェブサイトにて掲載してまいりますので、ぜひご注目ください。

こぶし会の運営をスピーディーに メールアドレスの登録にご協力を インフォメーションカードのQRコードから便利です

登録の ポイント

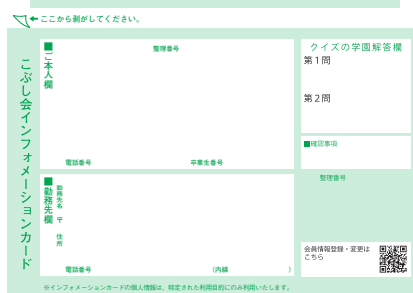
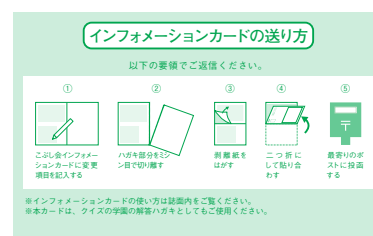
- タイムリーな情報共有とネットワークの強化
- 次世代の支援と活動の効率化
- 相互交流の活性化

【ご登録方法について】

インフォメーションカード右下のQRコードから入力してください。

※ ご登録いただいた個人情報は、こぶし会の活動および運営に関するご連絡のみに使用いたします。

※ すでにメールアドレスをご登録済みの方で、変更がない場合は再登録の必要はございません。



令和8(2026)年 10月17日(土)

卒業生なら誰でも参加できます！

ホームカミングデー・卒業50年セレモニー開催！

懐かしの母校に
帰ってきませんか！

金沢工業大学では、卒業から50年が経った卒業生を祝うほか、学科同窓会ごとに懐かしい友人や教員が集まる予定です。国際高等専門学校は、全ての年代の卒業アルバムが展示されており、在学生や教員と交流ができます。



[国際高等専門学校]

■ ホームカミングデー

[金沢工業大学 (扇が丘キャンパス)]

■ 卒業50年セレモニー

■ ホームカミングデー

祭 令和8(2026)年 10月18日(日)

こぶし祭

豪華賞品が当たるスタンプラリー



金沢工業大学のキャンパスを巡るスタンプラリーが人気です。スタンプを集めたら、ガラポンで抽選！見事、一等を当てられるか挑戦してください。また、抹茶がいただける「保二亭」もお越しください。

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトで2問を出題

クイズの学園 VOL 29

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトが連動して、クイズを出題します。応募するにはそれぞれの答えが必要ですので、注意してください。

第1問 会報こぶし(78号)からの出題



●●●●●●●●●● ボール

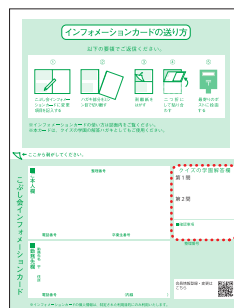
誌面の中から当てはまる言葉を探してください。
ヒント:P12をチェック！

第2問は こぶし会
ウェブサイト で出題 →



■ 応募方法

同封しているインフォメーションカードに、会報こぶしとこぶし会ウェブサイト
で出題されたクイズの
答え2つを記入してお
送りください。正解者
の中から抽選で20名
の方に3,000円分の図
書カードをお送りし
ます。なお、当選者の
発表は賞品の発送を
持って代えさせてい
ただきます。



■ 締切

令和8(2026)年
10月2日(金)当日必着

■ 正解発表

正解は令和8(2026)年10
月5日(月)にこぶし会ウ
ェブサイト上で発表し
ます。

こぶし会

検索

当選者は
20名!!

こぶし会は学園と後輩を応援しています！

学園への寄付に ご協力をお願いします！

過去から今へ。今から未来へ。金沢工大学園は、令和9(2027)年に70周年を迎えます。

その礎は卒業生の支援であり、学園と後輩を「後押し」しています。

未来へとつながる寄付へご協力をお願いします。

REPORT 01



学生ステーションで学内の活性化に努めました

支援を受けた
学生を
レポート！

「人々の生活を技術で豊かにしたい」

島林 宏太さん

(ロボティクス学科4年 鈴木亮一研究室)

「やらない後悔より、やる後悔」。挑戦は自分が成長する原動力です。中学時代に経験したロボットコンテストでの優勝、高校時代の部活動や生徒会活動を通じて、「人々の暮らしを“技術”で豊かにしたい」という確固たる志を抱きました。

私は現在、AIとロボティクスによる介護者や高齢者の生活支援の実現に取り組んでいます。「人と社会に技術をどう生かすか」。この問いの解を見つけるため、恵まれた学びの環境の中で研さんを積んでいます。

そして、専門的知識とともに、組織運営力やコミュニケーション力を養うため、2つの活動に力を注ぎました。まずは「学生ステーション」です。仲間と一つの企画を形に仕上げる経験は、私に主体性と粘り強さをもたらしました。さらに、夢考房「メカニカルサポートプロジェクト」での人命救助ロボットの開発です。技術が救える命があると信じ、技術者としての覚悟と実践力を磨いたと言えます。

「人をつなぎ、心を支える力」と「命を守るための確かな技術」を融合し、社会が求める価値を生み出す人材へと成長していきます。先輩方が築き上げた「挑戦を肯定してくれる文化」を未来へとつないでいきたいと考えており、今後も温かなご支援をお願いいたします。

REPORT 02



フルートを演奏する林さん

「仲間との時間は一生の財産です」

林 美奈さん

(情報工学科4年 山本知仁研究室)

金沢工業大学に入学して4年目の春を迎え、学業と部活動に全力を注いだキャンパスライフは挑戦の連続でした。

学びでは、「いかに社会実装するか」という観点から情報工学の技術の修得に取り組んでいます。また、主専攻である情報工学を学ぶかたわら、サブメジャー制度で経営情報学を履修し、日商簿記3級を取得して企業活動を数値で捉えるビジネスリテラシーを培いました。Jリーグの観客動員数予測コンペでは、10年分のデータから予測モデルを構築し、実社会の課題解決の難しさと、技術が価値に変わるダイナミズムを学びました。

吹奏楽部の活動は、私の人間性のステージを大きく引き上げてくれました。令和6(2024)年の定期演奏会では会場が変更となり、リハーサルは当日午前のみという逆境に直面しましたが、進行を即座に再編することで成功を収めました。こうした挑戦の姿勢が実を結び、令和7(2025)年の石川県吹奏楽コンクールでは11年ぶりとなる金賞を受賞しました。仲間と積み重ねた時間は、私にとって一生の財産です。

私たちが恐れずに挑戦できるのは、諸先輩方の温かいご支援があるからです。皆さまから受け取ったバトンを大切に、技術とビジネスで社会貢献できるエンジニアとして、恩返ししていきたいです。

いつまでも変わらぬ絆を

寄付いただいた方からの声

卒業生として新しい支援のカタチを

芳賀 文彦 さん(大学・情報処理・昭和60年卒)

株式会社CCIグループ(本社石川県金沢市、銀行、コンサルティング、投資ファンド等)で社外取締役を務める芳賀氏を田向純理事長、泉屋利明常任理事が表敬訪問しました。芳賀氏は、地域金融のDX推進の取り組みにより、地域の社会課題を解決し、未来の新たな価値を創り出しており、「まずは母校を訪問する機会を設け、卒業生としてどのような貢献ができるかを考えたい」と述べられました。



中央が芳賀さん

現場で流した汗を後輩に

松井 豊 さん(大学・建築・平成11年卒)

松井さんは、地元の大手建設会社「株式会社トーケン」の現場監督として、日々、地図に残る大きな仕事を手掛けています。寄付金贈呈式で見た晴れやかな表情には、「現場で流した汗を後輩のために役立てたい」という熱い思いが宿っていました。また、「次世代の教育環境を整えることでも後輩たちを支えます」と述べられました。



左端が松井さん

大学の知識を社員教育に

斉藤 盛雄 さん(大学・電子・昭和57年卒)

山口 浩人 さん(大学・電気・平成元年卒)

スイッチング電源メーカー「コーセル株式会社」の斉藤盛雄社長と山口浩人部長が来校されました。大澤敏学長は「継続的な支援に感謝します」と述べました。斉藤社長の希望でSDGs推進センター(現Beyond SDGs推進センター)を視察され、「社員教育の一環としてSDGsの考え方を活用したい」と語られました。



左端が斉藤さん、右が山口さん

学校と京藤先生に感謝

渡辺 悦史 さん(大学・電気・昭和47年卒)

平成30(2018)年から「会報こぶし」が届くたびに寄付を続けてきた渡辺氏。「今の自分があるのは、学校と京藤睦重先生との出会いがあったからで、その縁を大事にしています。寄付はその感謝の意を表したものです」と寄付者銘板を感慨深く眺めながら話されました。



■ 寄付者名一覧 令和7年10月1日～令和8年3月31日(敬称略 五十音順)

【個人】 新井真二、石井靖彦、泉屋利明、泉屋吉郎、泉屋吉伸、出雲津芳、磯谷淳史、伊藤啓二、今井潤、岩井慶次、植野博喜、梅野清一郎、遠藤茂、遠藤昭市、大島正敬、大西隆、加瀬達志、烏谷伸、北村和光、窪田健太郎、小島誠、小杉義博、小中博之、斉藤盛雄、酒井勝、酒井資明、坂野信夫、鈴木潤、関恒男、千徳英一、高島正人、高田理尋、高野宏康、工慎一郎、竹花道之、橘寿一、橘守、谷口勝則、田向純、田村甲午、田村崇、辻純、徳原俊介、中江友久、中田孝幸、中野秀樹、中村幸蔵、中村信一、並田和明、野口啓介、芳賀啓一、羽生田覚、飛田憲一、百万光生、平野哲正、福光憲征、藤原和也、前田正英、松田真一、松本誠一、松本正裕、三浦雅博、宮嶋忠、宮村壽、森本喜一郎、安田晴男、谷地貞男、矢野鉦大、山寄雅裕、山田昇、吉本重幸、鷺巣彰則、渡辺悦史

【法人】 株式会社学術社、柴電気工事株式会社、タケダ機械株式会社、松本建設株式会社、山一精工株式会社

あなたの母校は、いつでもここで待っています

活躍の場所は違えど、私たちは同じ「同窓生」。

卒業生一人一人の「できること」が、10年後、20年後の金沢工大学園を作ります。



ご寄付はこちらから



こぶし会 会計報告

令和 7 年度 保二会決算書

■収入の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
活動費収入	活動費収入	62,100
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		62,100

■支出の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	32,100
助成費	助成費	30,000
慶弔費	慶弔費	0
合 計		62,100

令和 8 年度 保二会予算書

■収入の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
活動費収入	活動費収入	400,000
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		400,000

■支出の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	170,000
助成費	助成費	200,000
慶弔費	慶弔費	30,000
合 計		400,000

令和 7 年度 こぶし会決算書

■収入の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
会費収入	正会員会費収入	39,060,000
	維持会費収入	3,348,000
基本財産運用収入	基本財産運用収入	0
雑収入	貯金利息収入	2,845
	その他の収入	3,328,050
繰越金収入	繰越金収入	86,749,471
合 計		132,488,366

■支出の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	1,053,426
事業費	会報費	23,033,115
	支部費	15,688,288
	企画費	2,104,051
総会費	総会費	7,308,243
同窓会助成費	保二会	62,100
	高専同窓会	305,505
	大学同窓会	3,121,677
学生支援事業費	学生支援事業費	75,000
積立基金	積立基金	30,000,000
繰越金	繰越金	49,736,961
合 計		132,488,366

令和 7 年度 金沢国際高専同窓会決算書

■収入の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
活動費収入	活動費収入	305,505
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		305,505

■支出の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	204,629
助成費	助成費	100,876
慶弔費	慶弔費	0
合 計		305,505

令和 8 年度 金沢国際高専同窓会予算書

■収入の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
活動費収入	活動費収入	964,000
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		964,000

■支出の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	422,000
助成費	助成費	512,000
慶弔費	慶弔費	30,000
合 計		964,000

令和 8 年度 こぶし会予算書

■収入の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
会費収入	正会員会費収入	44,550,000
	維持会費収入	3,900,000
基本財産運用収入	基本財産運用収入	16,000
雑収入	貯金利息収入	1,000
	その他収入	3,300,000
繰越金収入	繰越金収入	49,736,961
合 計		101,503,961

■支出の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	3,790,000
事業費	会報費	25,087,000
	支部費	26,750,000
	企画費	6,837,000
同窓会助成費	保二会	400,000
	高専同窓会	964,000
	大学同窓会	5,758,000
学生支援事業費	学生支援事業費	100,000
積立基金	積立基金	10,000,000
予備費	予備費	21,817,961
合 計		101,503,961

令和 7 年度 金沢工業大学同窓会決算書

■収入の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
活動費収入	活動費収入	3,121,677
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		3,121,677

■支出の部 R.7/4/1-R.8/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	129,214
助成費	助成費	2,992,463
慶弔費	慶弔費	0
合 計		3,121,677

令和 8 年度 金沢工業大学同窓会予算書

■収入の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
活動費収入	活動費収入	5,758,000
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		5,758,000

■支出の部 R.8/4/1-R.9/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	595,000
助成費	助成費	5,128,000
慶弔費	慶弔費	35,000
合 計		5,758,000

こぶし会の国際交流支援事業

世界へと飛び出す学生を支援

こぶし会では、国際高等専門学校と金沢工業大学が行う国際交流活動に参加する学生を支援しています。令和7(2025)年度春季海外研修・交換留学では、イギリス英語研修、SDGs インターンシッププログラム、英語研修などをサポートしました。

SDGs インターンシッププログラムでカンボジアに留学した田口正

太郎さん(大学・生命・応用バイオ学科4年次)は、教育を受けられない子ども向けのパンフレットを作成し、「他の国の学生の考え方や新しい視点が刺激になった」と語りました。

また、ロチェスター工科大学を選んだ宗田慎市さん(大学・メディア情報学科3年次)は、「文化や価値観を共有することが大切だと思った」と振り返りました。



帰国報告会で経験談を披露する学生

こぶし会ウェブサイトで 最新情報をゲットしよう!

ウェブサイトには、最新の情報が常に更新されています。
こまめに訪れてどんな活動をしているのか
チェックしてみませんか。



こぶし会

鎮 魂 (敬称略)

下記の方々がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

<特別会員>

令和7年12月 中田 喜代人
令和8年1月 森本 茂行
2月 作宮 和泉
清水 博
3月 草川 英昭
中易 秀敏

<正会員>

中谷 正史
(大学・建築都市・H20)
須栗 真人
(大学・情報処理・S56)
星野 正貴
(大学・機械・S57)
加藤 昇
(大学・電子・S53)
令和7年1月 桑原 章
(大学・建築・S49)
釜土 裕一
(高専・電気・S46)
2月 坂本 堅志
(大学・建築・S56)
3月 保本 久樹
(大学・経営・S46)
4月 山本 三郎
(大学・電気・S45)
寺林 達也
(大学・電気・S59)
5月 中島 喜一郎
(大学・電気・H6)

6月 山本 浩
(大学・経営・S61)

7月 茂住 知則
(大学・電気・H2)

石田 修
(大学・電気・S63)

尾崎 守
(大学・経営・S52)

9月 熊谷 哲秀
(大学・電気・S48)

奥居 隆司
(大学・電子・S52)

石川 巖
(大学・情報処理・S57)

10月 高井 豊峰
(大学・電気・S53)

11月 金井 一十四
(大学・機械・S50)

加藤 誠
(大学・経営・S49)

12月 石川 武広
(大学・情報・H2)

中野 正啓
(大学・機械・S55)

山口 啓一
(大学・電子・S53)

小泉 一明
(保二会・工大附・S44)

令和8年1月 山森 修
(保二会・工大附専・S41)

2月 大植 謙司
(大学・土木・S53)

八ツ木 幹彦
(大学・経営・S53)

野木 俊明
(大学・電気・S46)

3月 佐久本 健
(大学・機械・S50)

4月 大上 幸裕
(大学・電気・S50)

5月 滝川 洋
(保二会・電波高・S40)

山野 剛助 先生

大学名誉教授

令和8(2026)年1月11日、逝去。80歳。平成15(2003)年に教授に就任し、整数論とその応用で、学生の数理工基礎教育に情熱を傾けられました。細やかな心遣いができる一方、学問に対しては妥協を許さない厳しさも持ちでした。



丹野 平三郎 先生

大学名誉教授

令和8(2026)年2月12日、逝去。96歳。昭和46(1971)年に教授に就任され、ライブラリーセンターの基礎整備に寄与されました。学生には常に親身になって対応され、折り目正しく人間味あふれた講義が高く評価されました。



INFORMATION 『会報こぶし』へ皆さまの声を

会員同士はもちろん、皆さんと学園をつなぐ唯一の情報誌である『会報こぶし』では、会員の皆さまからのご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております。

■ 送り先

Eメール(kobushi@kanazawa-it.ac.jp) もしくは同封のインフォメーションカードをご利用ください。

※ 個人情報に関連する内容については掲載できませんのでご了承ください。

編集後記

◆今号では、「活躍する同窓生」の特集で、成長著しいパワーユニット業界で活躍する山田知徳さんを取り上げました。日本を代表する企業として世界に羽ばたくことを期待します。研究では、航空宇宙工学科の赤坂剛史教授を紹介し、「VTOL(垂直離着陸)型有翼電動ドローンの事業化を2年後に目指し、奮闘している姿に大いに刺激を受けております。また、30年間、バスケットボール部で監督を務めた青木隆教授には多くの方がお世話になったと思います。

◆さて、今年の夏は昨年と比較して、一段と猛暑になると予測されています。人生100年時代を迎えている中、健康こそが大事になってきます。こぶし会では、秋にかけてイベントが目白押しですので、ウォーキングなどで体調を整えていただき、ぜひご参加ください。／記 K.N

こぶし会事務局新人紹介

校友会事務局
こぶし会事務局長

丹羽 和征 さん

(大学・経営・平成6年卒)



大学時代はバスケットボール部に所属し、青木隆先生の指導を受けました。体育会系の部活動は、心と技が先輩から後輩へと受け継がれていくのが魅力です。そういった意味では、同窓会も世代と世代をつなぐ“和”の役割を担っているのだと思っています。同窓生が円となってつながり、未来を創造していく。そんな同窓会になるよう、尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

第28回 こぶし会ゴルフ大会

仲間同士でナイスショット!

令和8(2026)年
9月19日(土)開催

石川県能美市
白山カントリー倶楽部
松風コース



木々に囲まれたコースの中で、会話を楽しみながらプレーしませんか。詳細はこぶし会ウェブサイトをご覧ください。

Golf

第30回 全国一斉ボウリング大会

ご家族で気軽に参加ください!

令和8(2026)年
10月21日(水)～11月22日(日)開催

家族とともに参加できるボウリング大会も30回の節目を迎えました。各支部での開催会場などの詳細につきましては、後日、こぶし会ウェブサイトでお知らせいたします。皆さまの参加をお待ちしています。

- 参加資格…こぶし会会員およびそのご家族
- 参加費…会場により異なります
- 会場…こぶし会ウェブサイトをご覧ください



金沢工業大学「デジタル証明書(PDF)」が 企業等に直接送れるようになりました!

平成15(2003)年4月以降の
卒業・修了生、退学・除籍者対象
※虎ノ門キャンパスは対象外



金沢工業大学

発行可能な証明書

- 卒業証明書/修了証明書
- 在籍期間証明書(退学者又は除籍者のみ)
- 建築士試験 指定科目修得単位証明書・卒業証明書
- JABEE認定プログラム修了証明書(認定者のみ)

便利なPOINT

発行手数料は
コンビニ支払い

提出先の
企業等に
メールで送付

紙の証明書と
同様の信頼性

事前に確認を

- デジタル証明書(PDF)の受け取りの可否(オンライン送付の対応可否)
- 提出先の企業等の名称(証明書に印字されます)
- 証明書送信先の部署名・担当者名等
- 証明書送信先のメールアドレス

[各種証明書発行について]

大学の場合

■金沢工業大学ウェブサイト

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/>
TOPページ → 卒業生の方 → 各種証明書発行



金沢工業大学

高専の場合

■国際高専ウェブサイト

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/>
TOPページ → 卒業生の方 → 各種証明書発行



国際高専

こぶし会を日本一の同窓会組織に!

同窓会維持会費納入のご案内

こぶし会では、平成7(1995)年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**

80,000人を超える会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている方には、払込取扱票を同封しています。

■会費の払込方法 郵便払込(3年分一括払い3,000円)

お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードにご記入の上ご返送ください。

対象者

- 保二会全会員
- 高専同窓会 令和9(2027)年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 令和9(2027)年3月末日で40歳以上の会員

*会費の納入は80歳までとさせていただきます。

*令和5(2023)年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、令和8(2026)年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいますようお願いいたします。

こぶし会
事務局

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内
TEL.076-294-6375(直) FAX.076-294-0886
Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.<https://www.kobushi.jp>



こぶし会